

2014-11-1 馬の大腸

豚病理 山口遼作

提出機関: University of California Davis (アメリカ)

症例: 1歳 雄 サラブレッド (*Equus ferus caballus*)

病歴:

2009年12月1日 イベルメクチンで駆虫

2010年1月1日 フェンベンダゾールで駆虫

2010年1月28日 牧草地で横臥、転がっているのを発見。安楽殺。

血清生化学: アルブミンの低下 [1.7g/dL (2.7~4.2g/dL)]

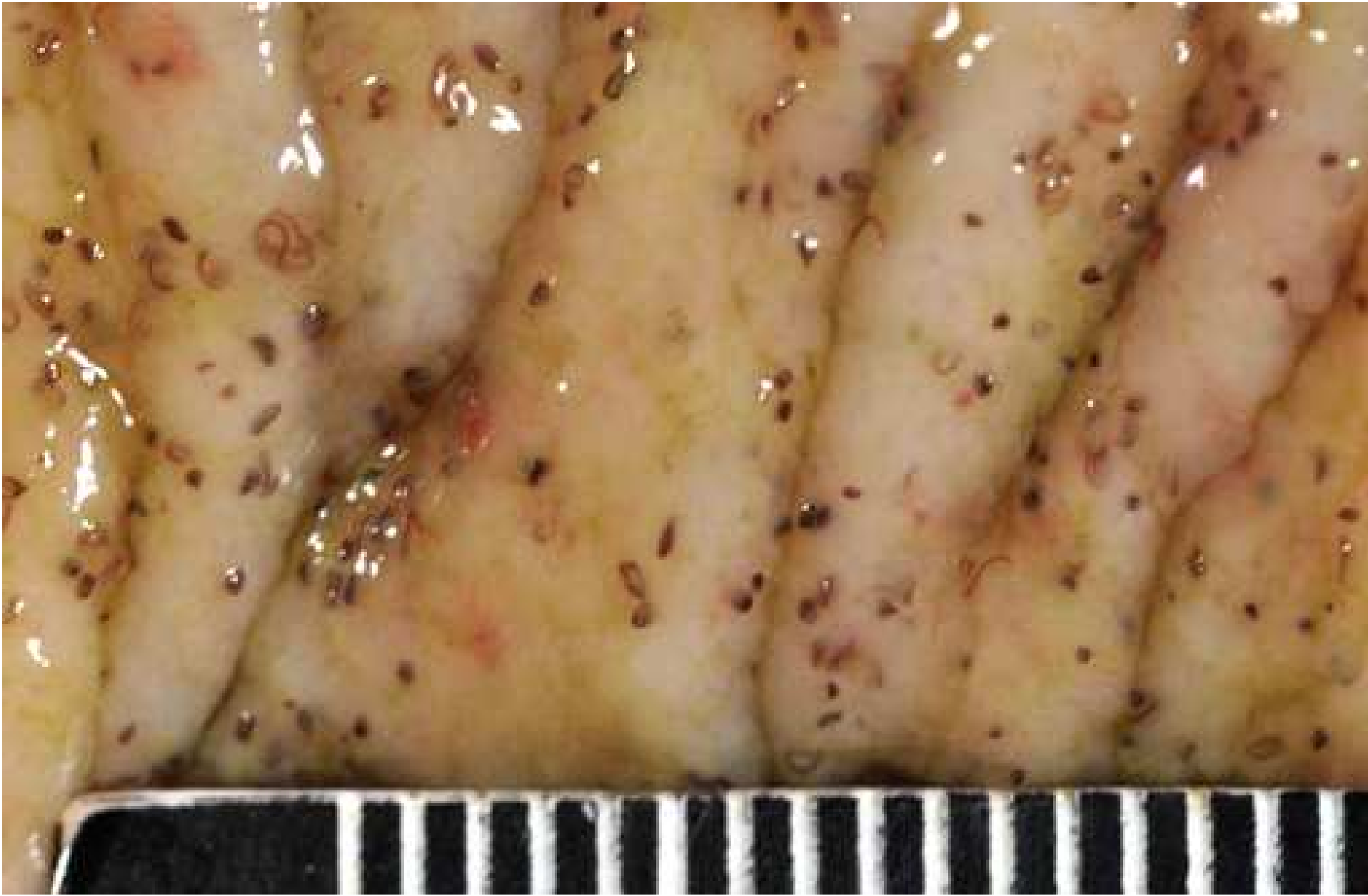
総タンパク質の低下 [4.8g/dL (5.8~8.7g/dL)]

好中球増加 [17313/ μ L (2600~6800/ μ L)]

肉眼病変:

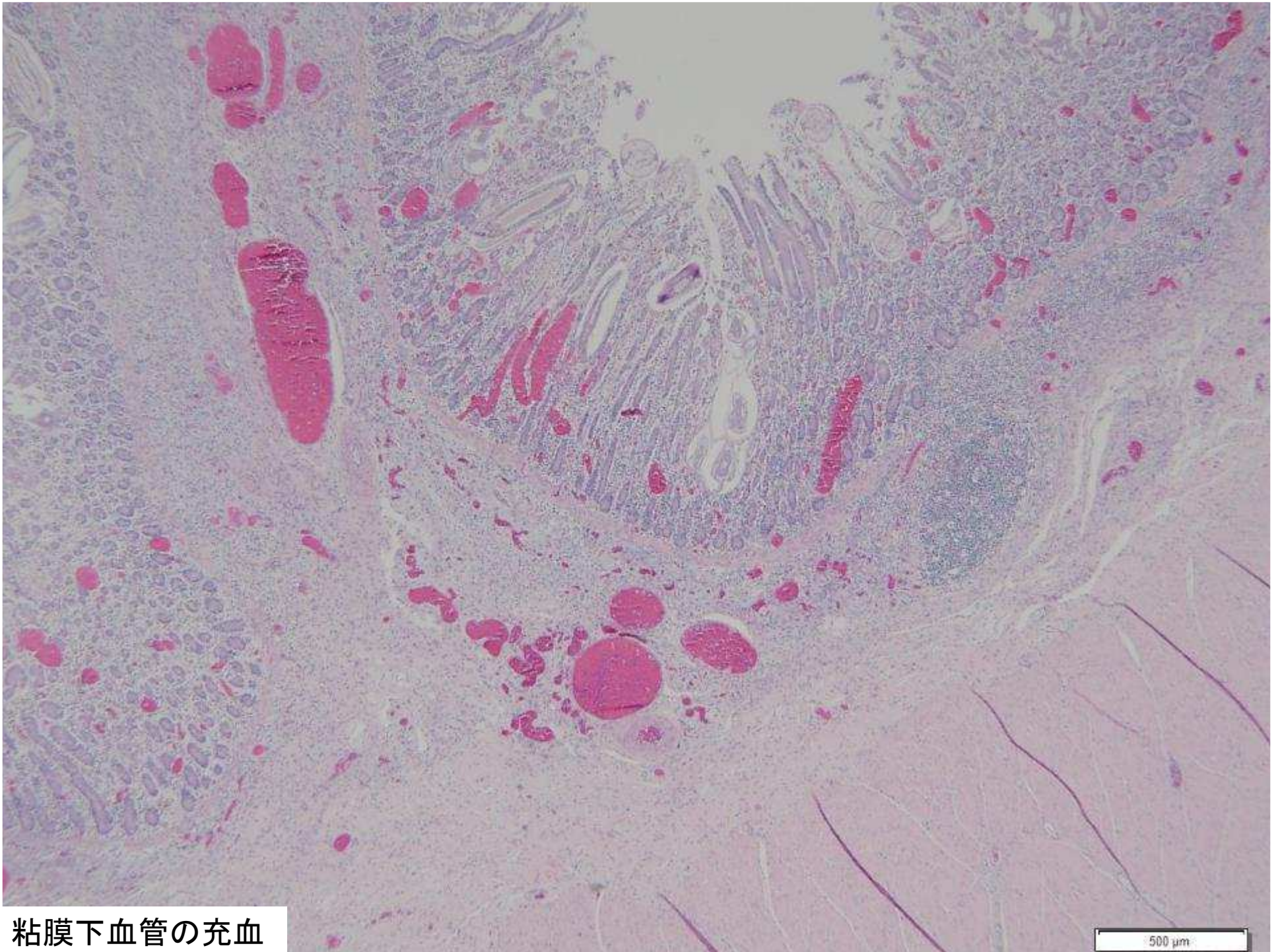
- 黄色混濁腹水約5L
- 結腸漿膜面は灰色~紫色
- 結腸粘膜面は、肥厚し、薄桃色~黄褐色。被囊した寄生虫に一致した針先大~0.1cm径の暗色斑点を無数に認める。
- 盲腸先端は反転し、右腹側結腸の内腔に存在した(盲腸結腸重積)



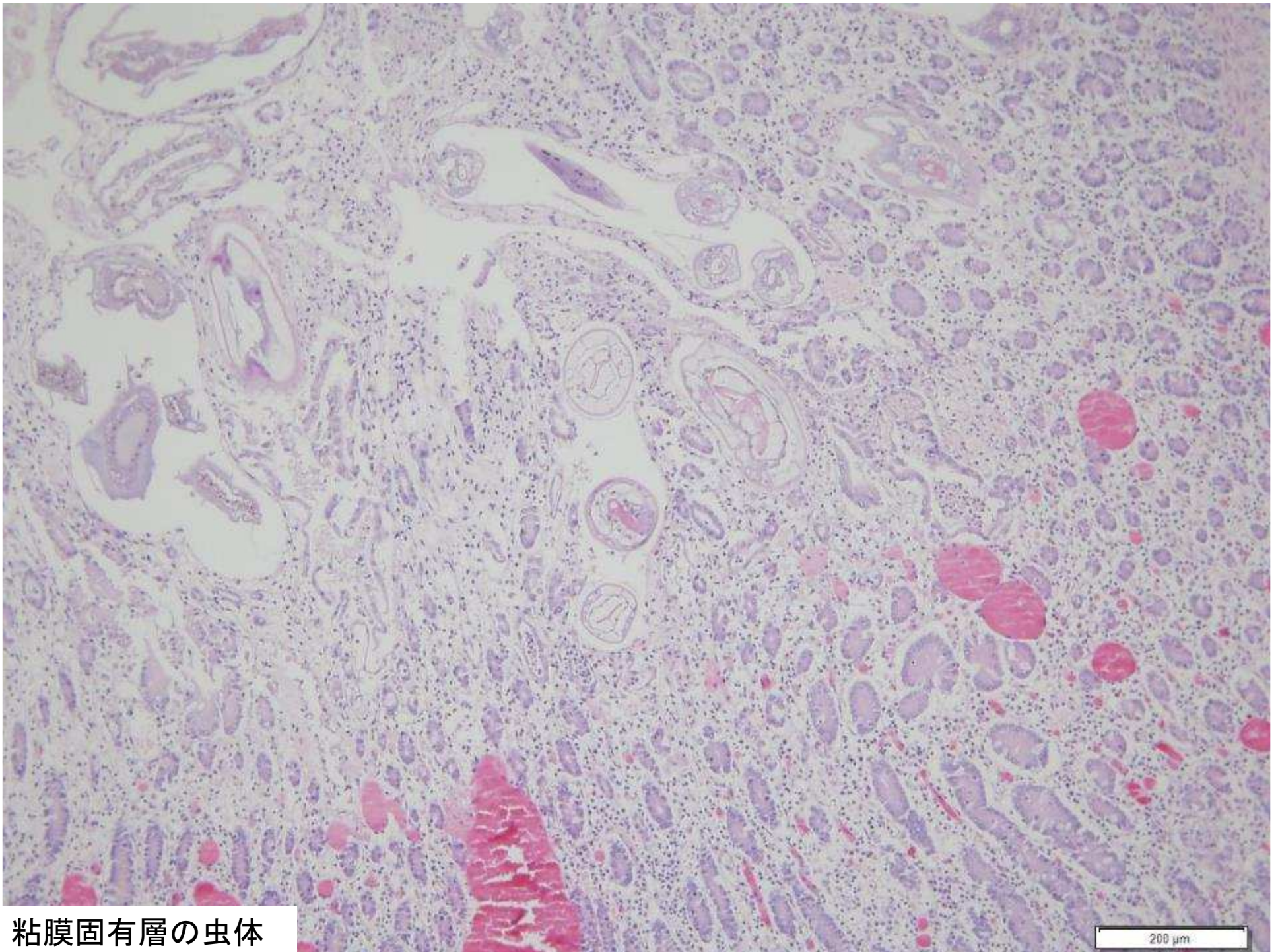




ルーペ像

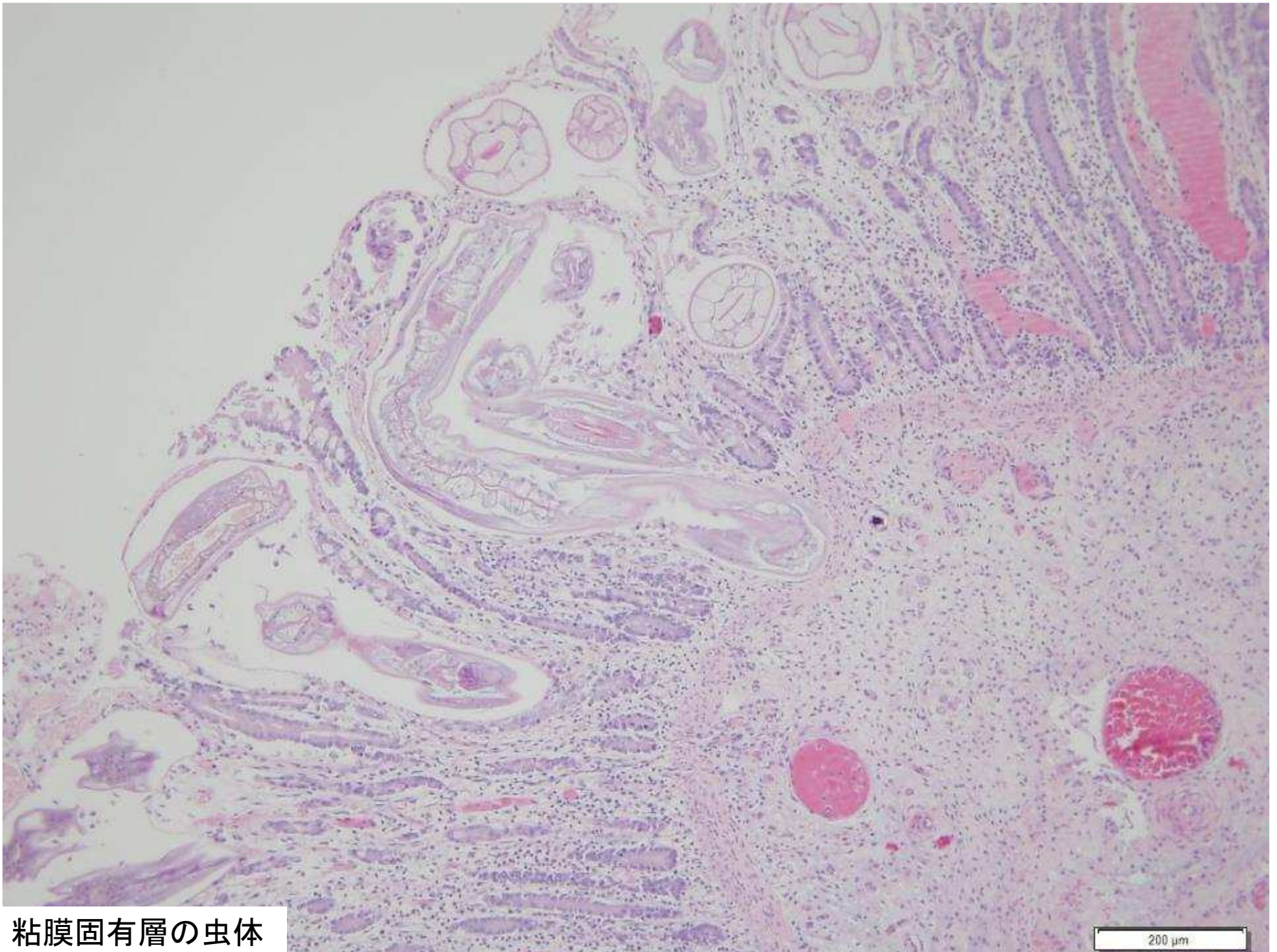


粘膜下血管の充血



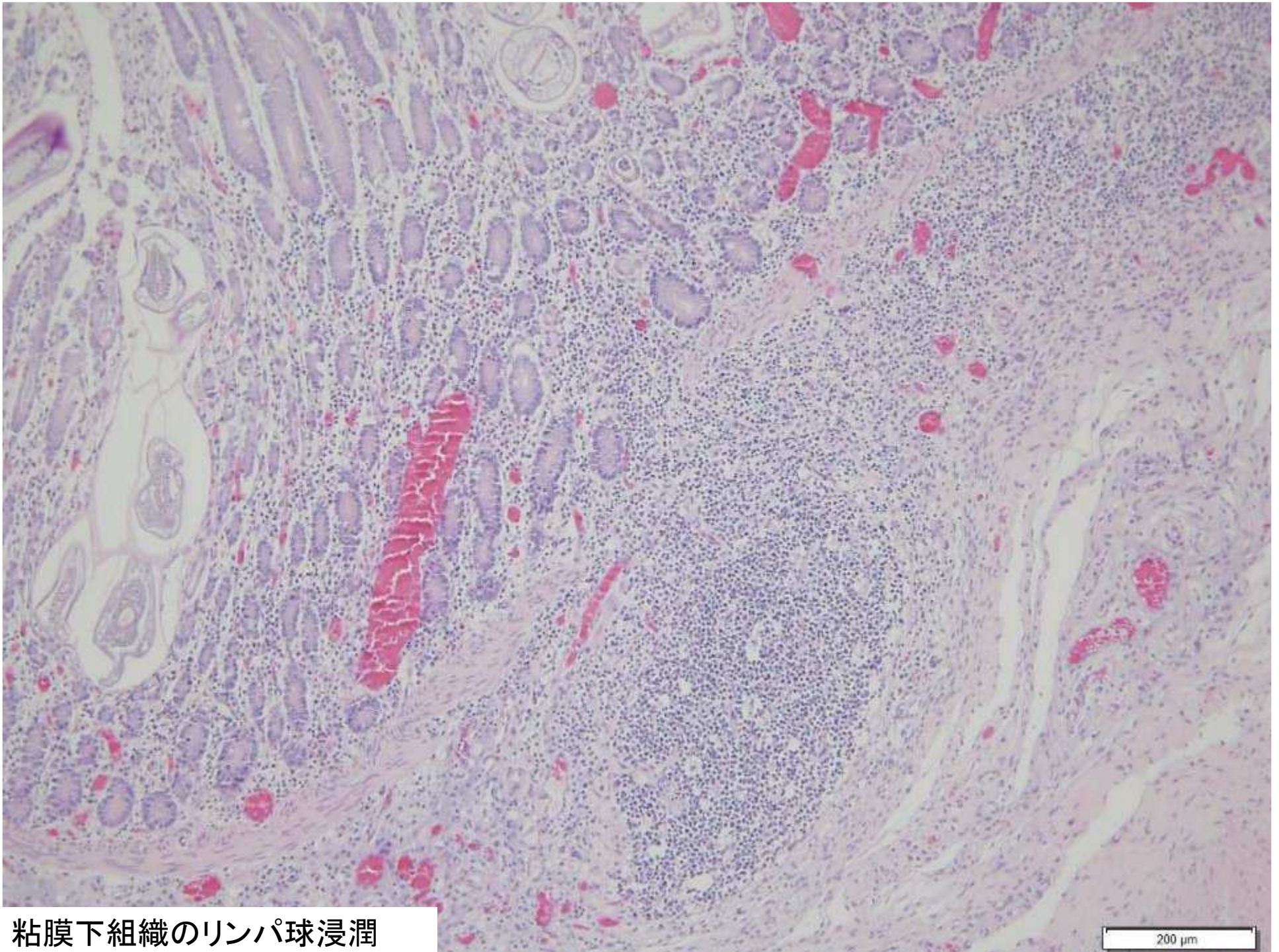
粘膜固有層の虫体

200 μm



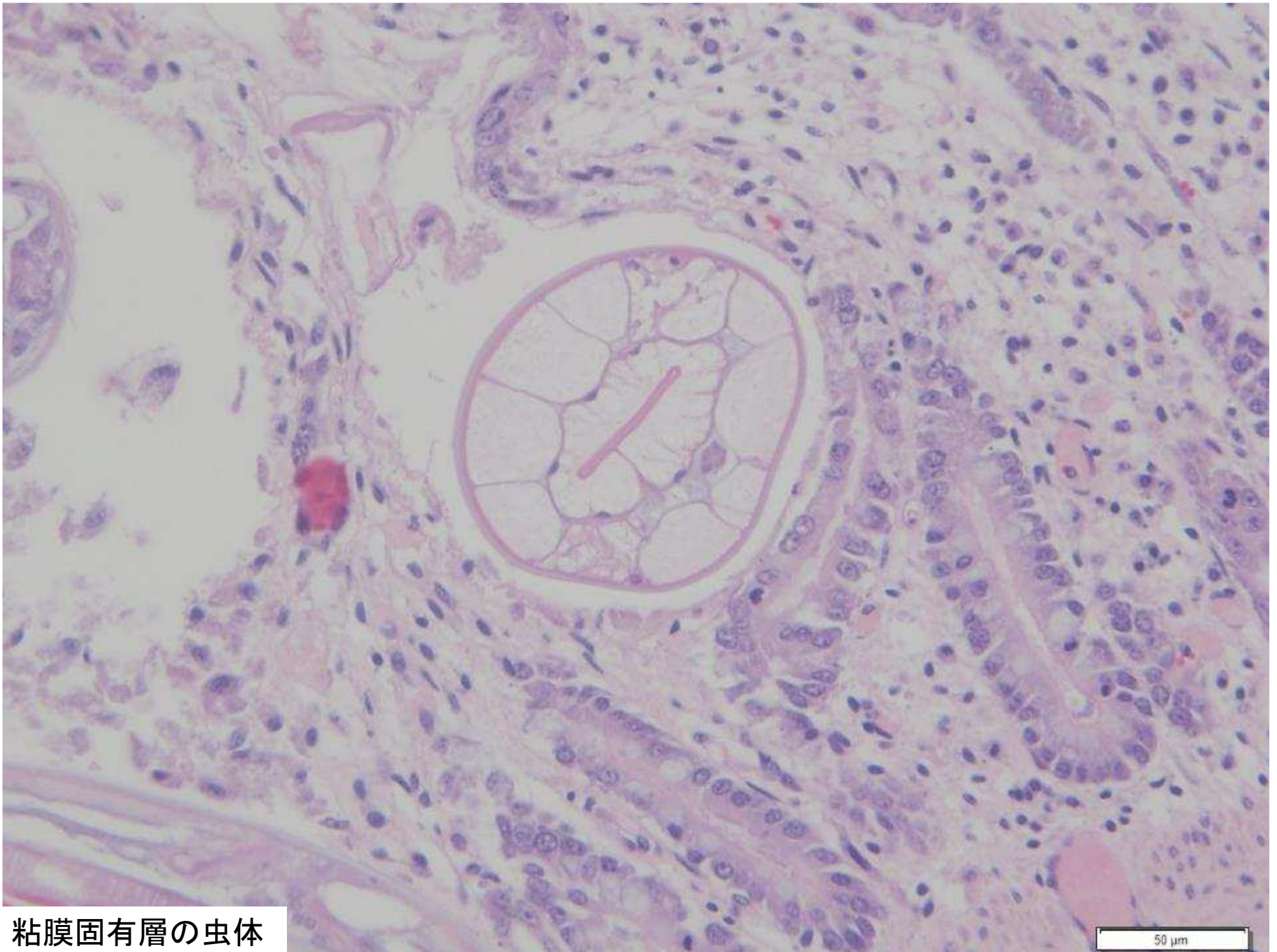
粘膜固有層の虫体

200 μ m



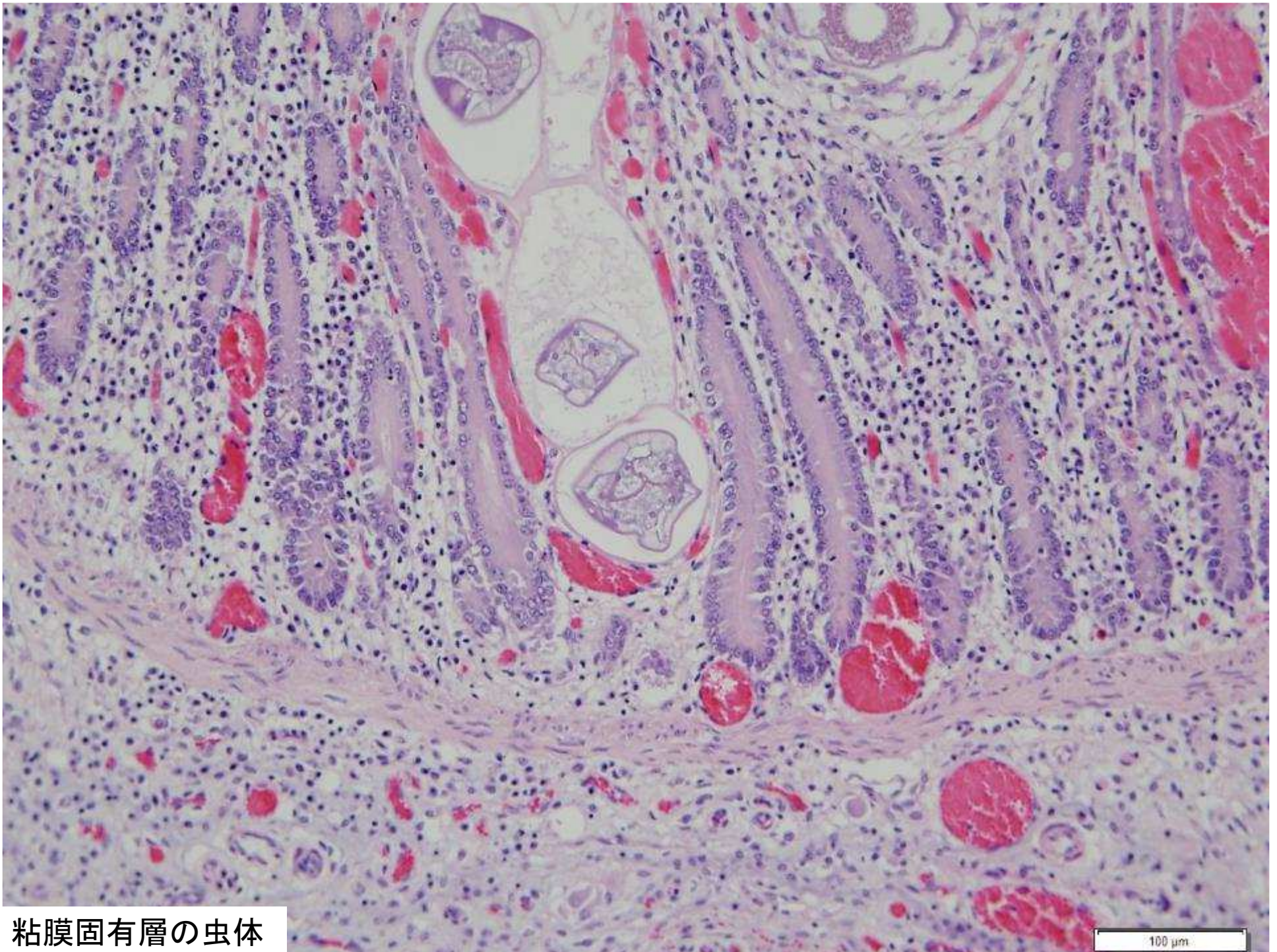
粘膜下組織のリンパ球浸潤

200 μ m



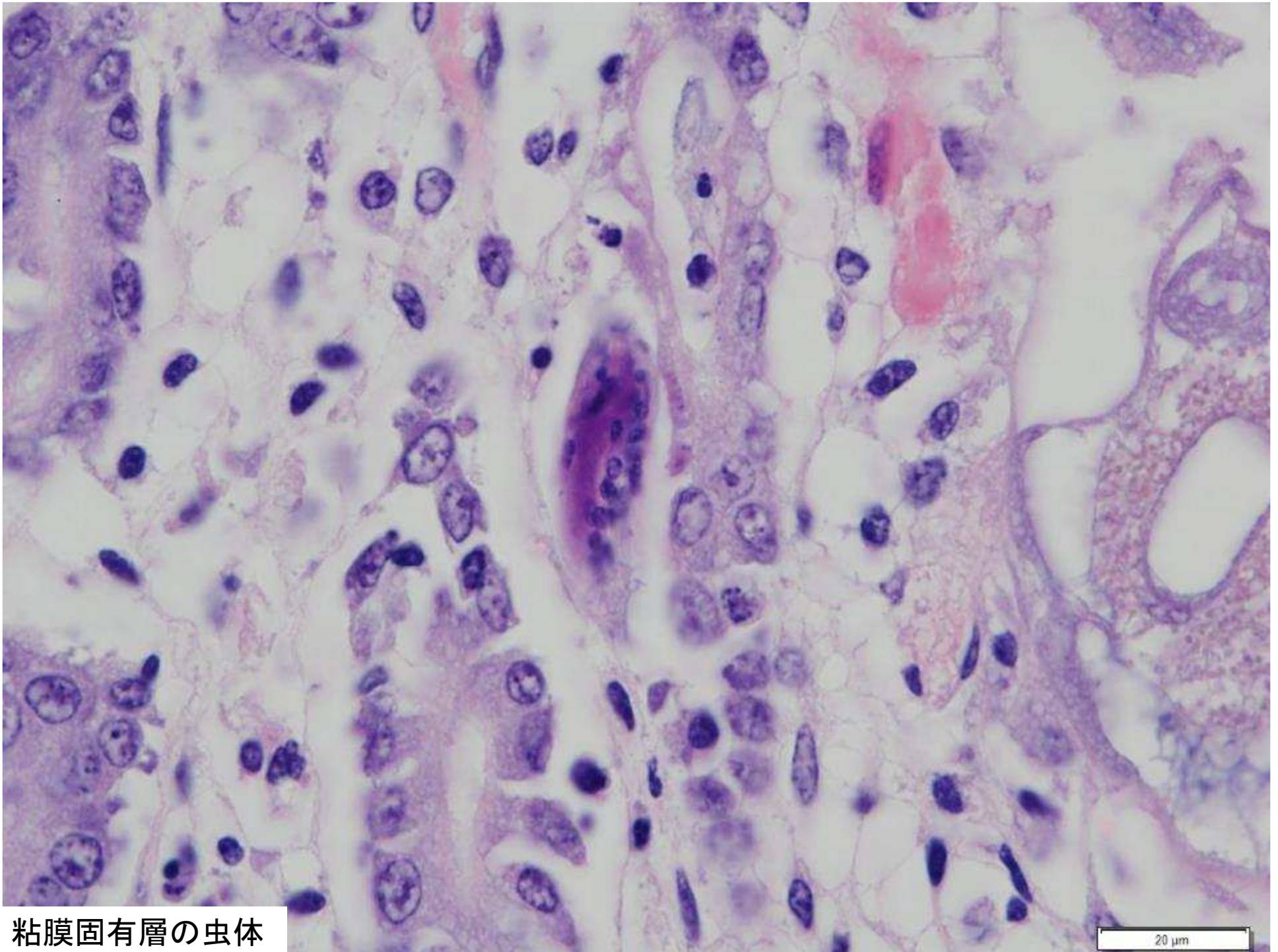
粘膜固有層の虫体

50 μm

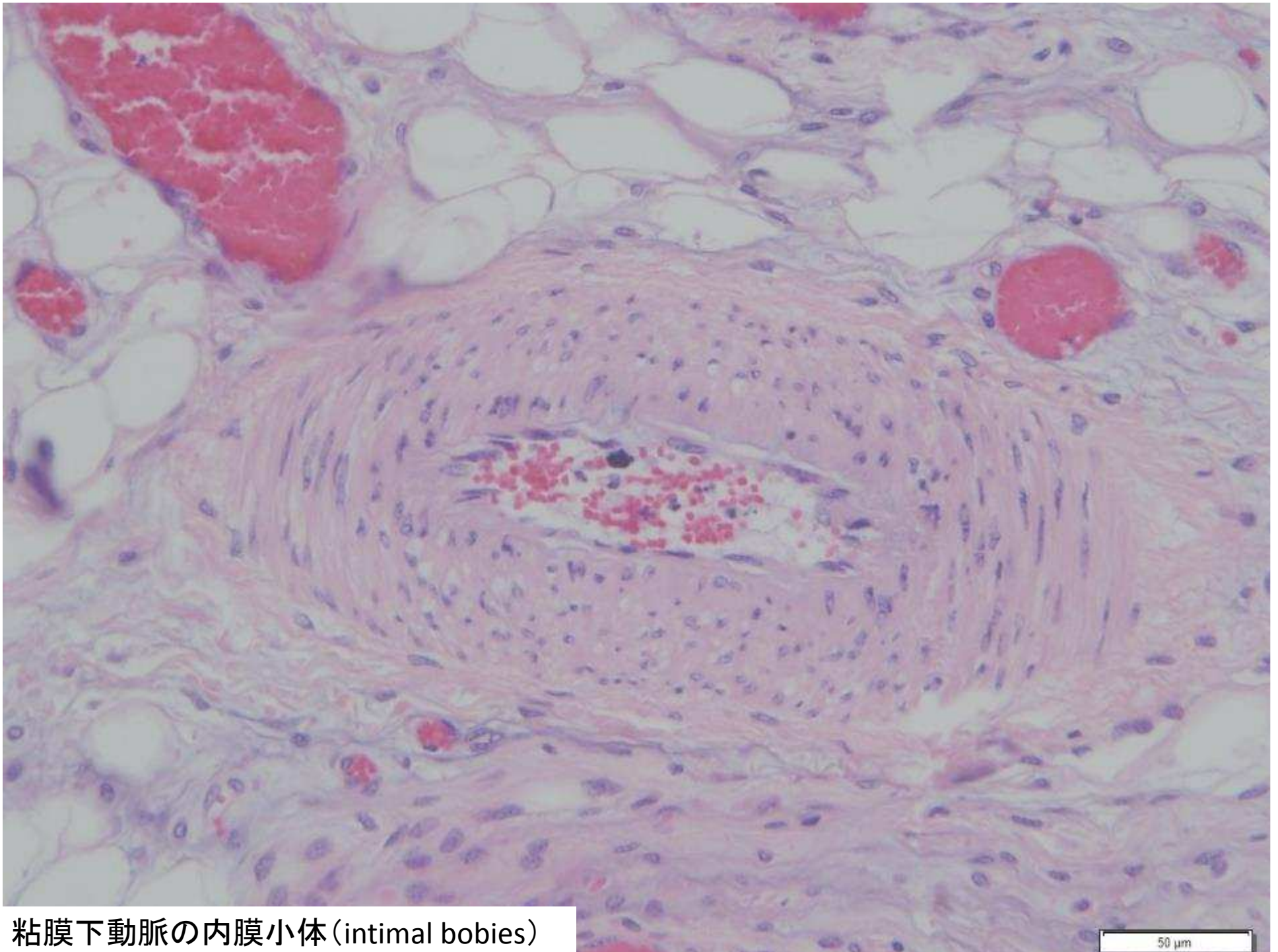


粘膜固有層の虫体

100 μm



粘膜固有層の虫体



粘膜下動脈の内膜小体 (intimal bodies)

50 μm

提出者の診断

盲腸: 急性梗塞を伴う盲腸先端の腸重積

大腸および盲腸: 粘膜における幼虫のシアトストーマ症

腹膜: 中等度腹水

状態: 大腸炎

Cecum: Apical cecal intussusception with acute infarction.

Large colon and cecum: Mucosal larval cyathostomiasis.

Peritoneum: Moderate peritoneal effusion.

Condition: Colitis

JPCの診断

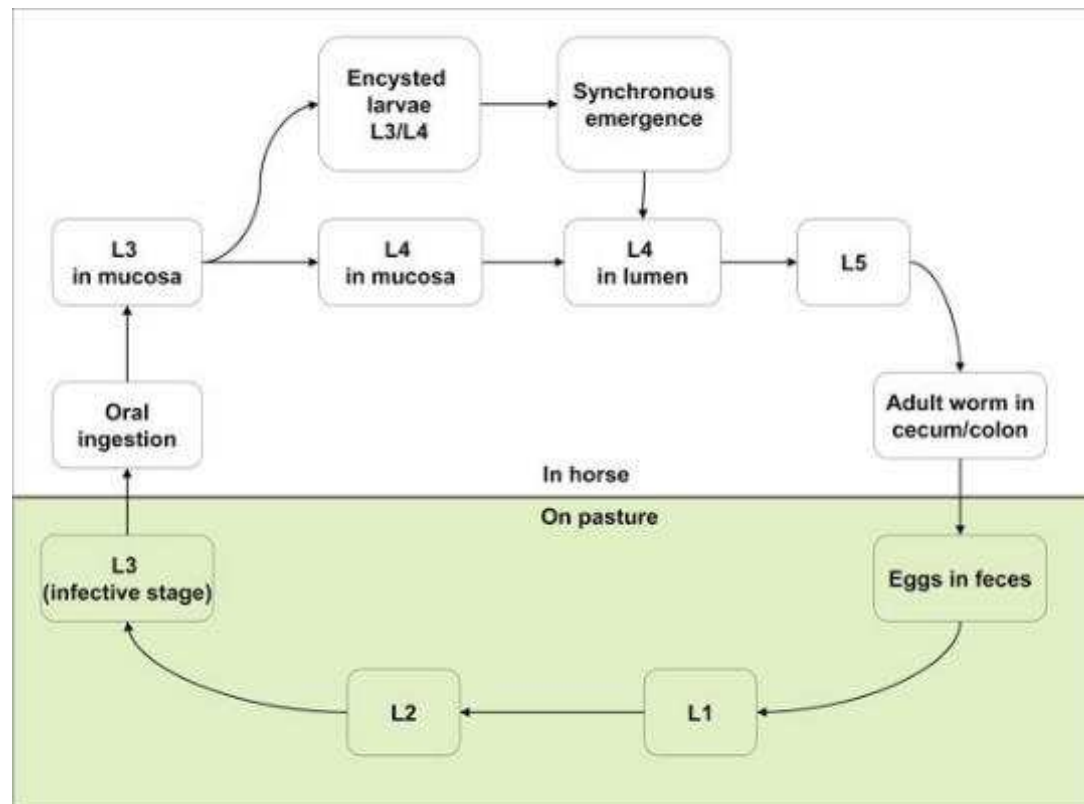
大腸: 大腸炎、組織球性及びリンパ形質細胞性、び漫性、中等度、多数の粘膜における小円虫の幼虫を伴う

Colon: Colitis, histiocytic and lymphoplasmacytic, diffuse, moderate, with numerous mucosal small strongyle larvae.¹³

提出者のコメント

- 小円虫症

- *strongylus*属を除く円虫亜科、毛細虫亜科の線虫。50種以上。
- 世界中に広く分布。
- 幼虫の体内移行は無い。
- 成虫の病原性は低い。
- 幼虫が粘膜内で被嚢化し、発育を停止する(hypobiosis)ことがある。



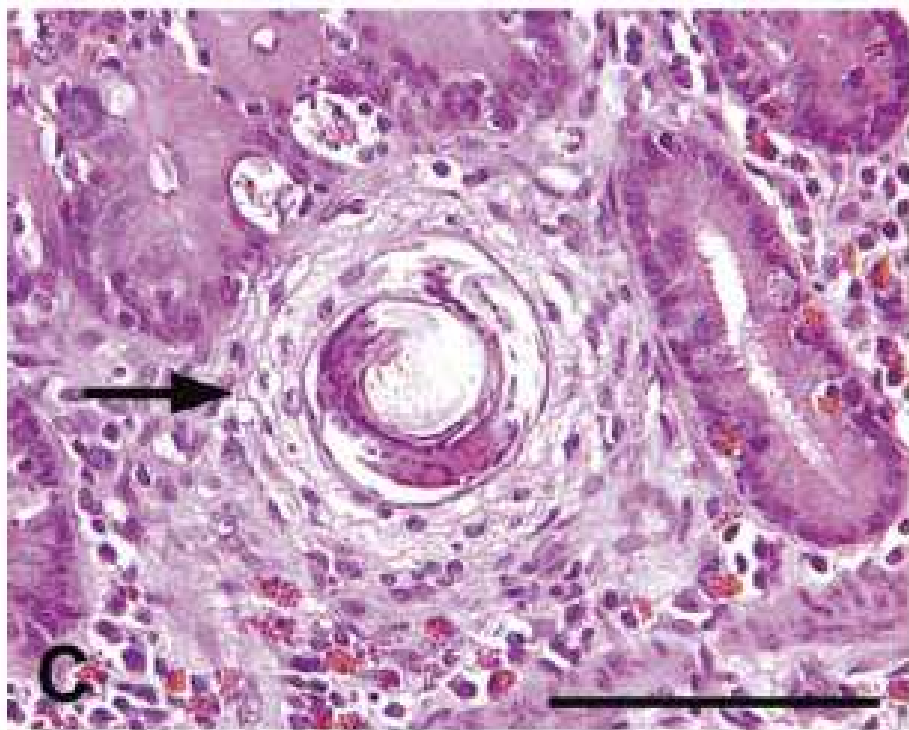
(Parasites & Vectors
2009, 2(Suppl 2):S1)

提出者・会議のコメント

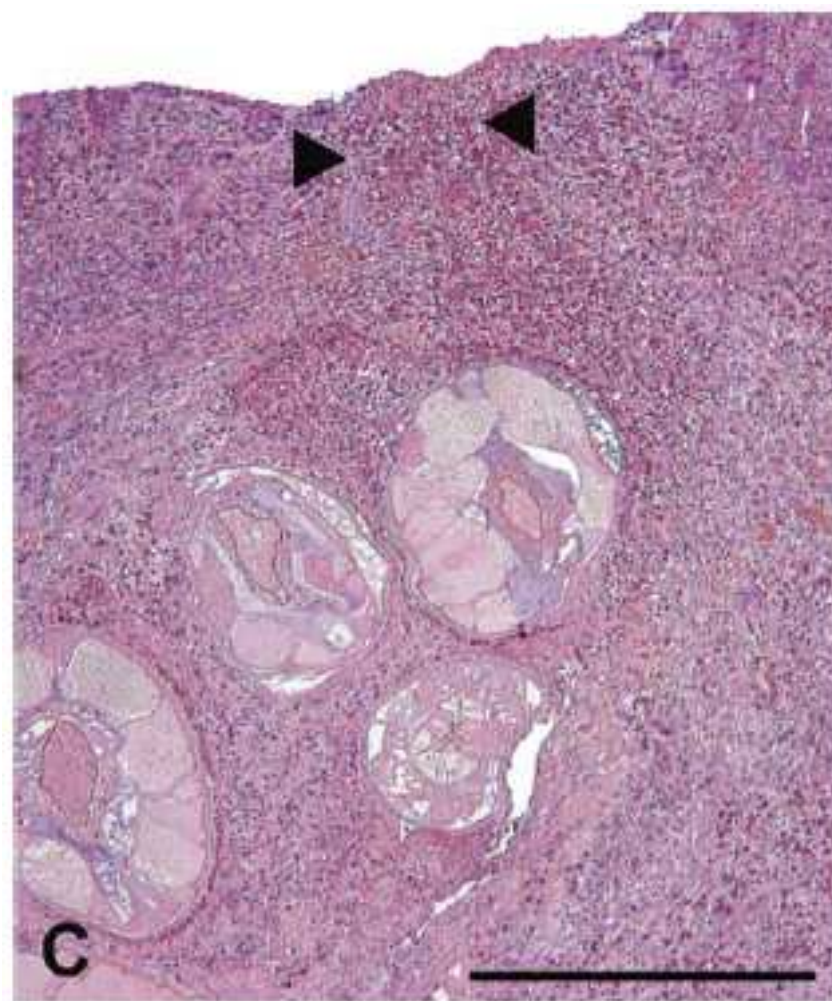
- 幼虫のシアトストーマ症

- 発育停止した幼虫が一斉に発育を開始し、粘膜を著しく障害。
- 晩冬から初夏において頻繁に発生するが、要因については不明。
- 発育停止中の幼虫には、多くの駆虫薬は無効 → 薬剤耐性
- 駆虫後に発生しやすいとされ、管腔内の虫体が、粘膜の幼虫の発育を阻害している可能性。
- 臨床症状として食欲不振、体重減少、下痢、疝痛を認め、盲腸盲腸重積を伴うことがある。
- 血液所見として、好中球増加、低アルブミン血症を認める。
- 組織学的には、粘膜筋板の破綻、粘膜潰瘍、浮腫、肉芽腫性腸炎、カタル性出血性腸炎などを認める。

- 生前診断は困難



L3 Bar:200 μ m



L4 フェンベンダゾール投与14日後
Bar: 500 μ m

(Veterinary Parasitology Volume 139, Issues 1–3, 30 June 2006, Pages 115–131)